

4 令和8年度の学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①一人ひとりの学びやすさに応じてICT機器の活用を工夫し、ねらいを明確にした授業を実践する。</p> <p>②「かかわる力」の育成を目指し、教育的ニーズを踏まえた系統性と連続性のある教育活動を推進する。</p>	<p>①児童生徒一人ひとりの実態に応じたICT機器の活用により、子どもの「できた」「わかった」の実感が持てる実践を積み重ねる。</p> <p>②系統性と連続性のある教育活動を行うためのハンドブック（旧カリマネ要綱）を作成する。</p>	<p>①ICT機器の活用に関する実践事例について共有・積み上げを行い、児童生徒の実態に応じた活用について保護者との共有を図る。</p> <p>②学校共通の視点や配慮事項とともに学部等の意見・要望を吸い上げ、随時必要なものを提示し、最終的にハンドブック化したカリマネ要綱を作成する。</p>	<p>①ICT機器の活用事例を共有し、学校財産として蓄積することができたか。</p> <p>①ICT機器活用の取組について保護者に伝えることができたか。</p> <p>②参考となるものを提示し続け、新たなカリマネ要綱を完成させることができたか。</p>
2	児童・生徒指導・支援	<p>①人権を尊重し、関係者の連携によるチーム支援を行い、教育活動を効果的に推進する。</p> <p>②共通のアセスメントの活用をすすめ、個別最適な指導・支援に組織的に取り組む。</p>	<p>①児童生徒の生活年齢を考慮し、人権を尊重した指導、支援を行う。</p> <p>②アセスメントの結果を児童生徒の教育的ニーズに応じた指導、支援に活かす。</p>	<p>①生活年齢に配慮した指導について学部学年で話題にする機会を設け、カリキュラム班や企画会議でとりまとめる。</p> <p>②授業改善の実践の中で、アセスメント結果に基づいた指導案の作成や授業を実践する。</p>	<p>①児童生徒へのかかわりについて日々振り返り、校内で共有することができたか。</p> <p>②目標設定や支援方法についてアセスメントの結果を反映し、指導、支援の工夫の共有ができたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>①児童・生徒の自立と社会参加に向け、児童・生徒が地域社会で豊かに生きる力を育む。</p> <p>②児童・生徒の主体的な進路選択に向けて、保護者や関係機関と連携し、進路指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①児童生徒の社会参加に向けた主体的、自発的なコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>②ライフステージに応じた進路指導・支援の内容を整理し、児童生徒の主体的な進路選択を支援する。</p>	<p>①各自のコミュニケーション、発信方法等について、個別教育計画に明記する。</p> <p>①校内外の専門職等を活用し、日常の活動の評価と振り返りを行う。</p> <p>②各学部に応じた進路指導・支援の内容を進路指導資料で整理し、関係者と共有する。</p> <p>②保護者のニーズがある新しい進路情報を関係機関と連携して、随時情報提供をする。</p>	<p>①個別教育計画にコミュニケーションに関する表記を行い、複数の目で評価したか。</p> <p>①学部や学年単位で教育相談等を活用し、振り返りを日常の指導に活かすことができたか。</p> <p>②進路指導資料の見直しを各学部で行い、ライフステージに応じた進路支援の視点を整理できたか。</p> <p>②行政等と連携して新設された福祉サービスについて保護者に情報提供できたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域関係機関との連携を充実させ、地域における教育活動の深化と新たな展開を図る</p> <p>②センター的機能の発揮や児童・生徒・教職員の地域との交流を通して共生社会の実現に向けた働きかけを行う。</p>	<p>①近隣施設との連携を深め、教育活動の充実を図る。</p> <p>②学校コンサルテーションの視点を重視し、市教委と連携してセンター的機能を発揮する。</p>	<p>①花菜ガーデン等地域施設と学校双方のニーズを踏まえ、連携して教育活動を行う。</p> <p>②地域の教育委員会と協働し、地域の学校の「学校コンサルテーション」を推進するための協議を継続し、教育委員会等からの相談の在り方をよりよいものにする。</p>	<p>①双方の意見のすり合わせと目的を整理し、地域施設と連携した教育活動ができたか。</p> <p>①地域の方に児童生徒等の様子も含めた学校の様子を知ってもらう機会を設けたか。</p> <p>②教育委員会と協議する機会を設定できたか。</p> <p>②教育委員会・学校へ働きかけ、円滑に情報共有できるように工夫ができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①あらゆる災害を想定した防災体制の強化を促進し、対応マニュアルの整備や必要な訓練を実施し有事に備える。</p> <p>②さまざまな面での働き方改革を促進し、業務改善を図る。</p>	<p>①大災害に備え、地域と連携した初動対応ができるようになる。</p> <p>②教員間のコミュニケーションを活性化し、同僚性を向上させる。</p> <p>②私費会計のシステムを改善する。</p>	<p>①災害における地域と学校との共助に係る覚書を交わす。</p> <p>①防災学習でどんな力を児童生徒に身に付けさせたいか、項目と段階を整理し、内容の充実を図る。</p> <p>②チャットを活用しながら情報共有の発信後に伝わっているか確認をとったり、挨拶・雑談をしたりすることをおして積極的にコミュニケーションを図る。</p> <p>②会計担当者が代わっても正しく取り扱いができる入出金や帳簿作成のマニュアルを整え、周知徹底する。</p>	<p>①地域のニーズと学校の状況に応じた内容で覚書を作成できたか。</p> <p>①引き渡しに関する職員の動きを確認し、訓練を重ねたり、防災給食を実施したりできたか。</p> <p>②様々な働き方の職員がいる中、日頃の何気ない対話でコミュニケーションを図るとともに、全職員取りこぼすことなく気持ちよく働けているか、確認できたか。</p> <p>②児童生徒の様々なケースに対応しながら、より効率的で負担の少ない処理方法やマニュアルに変更できたか。</p>